

6年 音楽科学習指導案

1. 題材名「みんなでつくる『あゆみ SONG』」（音楽づくり）

2. 題材の目標

○旋律、音の重なりや和音の響きなどと曲想の関わりを理解するとともに、和音に含まれる音を使って旋律をつくる技能を身につける。 [知識及び技能]

○和音の響きの移り変わりや旋律の重なり方の違いなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。 [思考力、判断力、表現力等]

○和音の響きの違いや移り変わりをいかして表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、つくった旋律を聴き合い、気付いたことを伝え合う学習に主体的に取り組む。

[学びに向かう力、人間性等]

3. 子どもと題材

本学級の子どもは、自分の思いを素直に表現することができる。音楽の授業においては、自分の思いを友達と伝え合い、どんな歌唱や演奏にしたいかについて目指す表現を共有しながら活動を行ってきた。「翼をください」（合唱）では、どんな合唱にしたいかについて、歌詞や楽譜から読み取ったことをもとに考え、「作詞者が子どもの頃からの願いだと言っているサビの歌詞は願いが伝わるようにはっきり歌いたい」「サビの前にクレッシェンドがついているからもっと大きく歌いたい」など、表現に対する思いや意図を伝え合いながら練習を進めた。ソプラノとアルトのパートのバランスを把握するために、自分たちの演奏を録音して何度も聴いたり、出だしを揃えるために指揮者を立てたりと自分たちの目指す表現に向かって何度も試行錯誤しながら曲の完成を目指す姿が見られた。この題材の振り返りでは、「みんなでいっぱい練習したからこそよい合唱になった」「みんなの声が一つにまとまってくることが分かった」など、声を合わせることで生まれる一体感や何度も試行錯誤することで目指す表現に近づく達成感を味わうことができた。7月の教科研の実践「いろいろな音の響きを味わおう」

（合奏）では、主な旋律、かざりの旋律、和音、低音の4つのパートをどの楽器で演奏するかについてグループで話し合いながら活動を進めた。「主な旋律は明るく演奏したい」という思いをもった子どもは「鉄琴の音色にしよう」と考え、友達と関わる中で「主な旋律の細かいリズムを鉄琴で叩くより、音が伸びるかざりの旋律を鉄琴にした方が明るくなる」と音色の特徴をいかして楽器を選択する姿が見られた。また、「音を合わせたい」という思いをもった子どもが「小太鼓をメトロノーム替わりに入れよう」と考え、グループで話し合う中で「小太鼓は拍を打つだけでなく曲を盛り上げるために入れたらどうか」という友達の考えを受け入れ、「みんなの音が全部聴こえる合奏」という目指す表現に向かって何度も試行錯誤する姿が見られた。このように、自分の思いを素直に伝えられるからこそ、互いに思いを伝え合い、何度も試行錯誤しながら目指す表現に向かって主体的に取り組むことができたと考ええる。表現領域の歌唱と器楽において、このような姿が見られた子どもだからこそ、音楽づくりにおいても、自分の思いや意図をもって取り組むことができるだろう。音楽づくりは、自分の思いや意図を自由に表現することができる。だからこそ、つくった音や音楽をもとに互いの思いをぶつけ合うことで目指す表現に向かうことができるだろう。それにより、みんなで一つの音楽をつくり上げることができた達成感や満足感を味わうとともに、自分の思いを音や音楽で表現することができる楽しさをこれまで以上に感じてほしい。

そこで、本題材では、音楽づくりの中でもより自由に表現でき、表現の幅がある旋律づくりの活動を行う。今回は「学級ソングをつくろう」という課題を提示する。一人ひとりが自分の担当する部分の旋律をつくり、それをつなげていくことで自分の思いを音で表現することはもちろん、みんなで一つの音楽をつくる活動ができると考える。また、本学級の子どもは、自分たちの学級のよさを「明るくて元気」だと考えており、6月に行った「つどい」でも、この学級文化を全校に伝えようとするほど、自

分たちの学級文化に誇りを感じている。そんな子どもに今回の課題を提示することで、より自分たちの学級への所属感を高めるとともに、卒業を控える6年生としてより学級の団結が強まるのではないかと考える。そして、自分の思いや意図をもって表現した旋律を他者と共有し、目指す表現に向かって試行錯誤することで、感性が高まり、音楽に親しむことができるだろう。

また、今回の旋律づくりは、和音に合う音という制限はありつつもリズムや音の高低などある程度の自由度があり、自分の思いを音で自由に表現することができる。しかし、思うような旋律がつかれなかったり、どのような旋律にしたらいいか迷ったりする子どももいるだろう。そこで、今回は歌詞をあらかじめ決めておいてから授業を進めていく。どんな曲をつくりたいかをあらかじめ共有しておくことで、目指す表現のイメージがより具体的に共有されるだろう。イメージが共有されていることで、歌詞に合う旋律をつくる際に使う音や歌詞の文字に合ったリズムを考えることが焦点化され、見通しをもつことができる。さらに、個人で旋律をつくる際には、基本的にGarageBandを使用する。GarageBandで作業することで、誰でも簡単に旋律がつけられることはもちろん、録音機能を使って録音することで再現性のある旋律をつくることができ、何度も試行錯誤しながら旋律をつくることができるだろう。また、和音と同時に音を重ねることができるため和音に合っているかどうかの判断もしやすいだろう。

これらの活動を通して、みんなで一つの音楽をつくり上げることができた達成感や満足感を味わうとともに、自分の思いを音や音楽で表現することができる楽しさをこれまで以上に感じてほしいと願い、本題材を設定した。

4. 本題材における『その子らしく学ぶ』～本単元で願う「心の動きを伴う経験によってその子に還るもの」～

本題材の導入で、正しいコード進行で伴奏された「茶色の小びん」とずっと同じ和音（Cメジャー）で伴奏された「茶色の小びん」の二種類を聴き比べる。旋律は同じなのに曲の雰囲気が違うことに着目し、和音の響きの違いに気付くだろう。そして、和音とは何かについて学んでいく。実際に和音を声や楽器で演奏することで、和音の響きの違いを味わったり、響きの美しさに気付いたりするだろう。そして、自分たちの学級ソングにはどの和音が合うのかを考え始めるだろう。

和音の響きの違いを実感した子どもは、和音のつながりによって生まれるコード進行について学んでいく。全く別の曲でも、実は同じコード進行で演奏されていることを知ったり、コードが一つ変わるだけで曲の雰囲気が全く違う演奏になることに気付いたりする中で、「(学級目標に沿って)明るくて元気に聴こえるコード進行はどれだろう」「自分たちのイメージに合うコード進行を見つけないか」と思いをもつだろう。そして、どんな学級ソングをつくりたいかについて改めて考えながらコード進行を決定していくだろう。

和音に合わせた旋律づくりを始めた子どもは、まずは歌詞に合わせて即興的に旋律をつくっていくだろう。そして、自分のつくった旋律と和音を何度も重ねて聴きながら「この部分は和音と音がぶつかっているから和音の音に含まれる音に変えよう」「同じ音ばかりの旋律だとラップみたいに聴こえるから音を上げたり下げたりしてみよう」と音とじっくり向き合い自分の目指す表現に向かって何度も試行錯誤をするだろう。そして、納得のいく旋律ができた際には、周りの友達に聴いてもらおうと自然と交流し始めると考えられる。

つくった旋律を全体でつなげた曲を聴いた子どもは、個人でつくった旋律という意識から学級ソングとしての曲のまとまりへと意識を変えていくだろう。「サビの前はもう少し盛り上がる旋律にしたらどうかな」「AメロとBメロのつながりの部分が少し違和感があるね」など、和音と旋律の音の重なりだけでなく旋律と旋律のつながりについて伝え合うだろう。そして、「この旋律のここの音を一つ変えたらいい感じなんだけどどうかな」「最後の歌詞が伝わりやすいようにこの和音に変えたい」など、何度も試行錯誤しながらより目指す表現に近づけていく。

学級ソングが完成に近づいてくると、できた旋律を口ずさんだりみんなで音を合わせたりし始めるだろう。そして、さらに目指す表現に近づけるためにどんな曲にしたいかを改めて振り返る中で「もっと元気な曲にしたい」という思いをもった子どもは「伴奏は和音だけじゃなくて他の楽器を入れるのはどうかな」と考え提案したり、「伴奏にもこだわりたい」という思いをもった子どもは、「和音の音色はピ

アノ以外にしてみよう」と考え試したりしながら、できた曲にアレンジを加えていこう。そして、より目指す表現に近づけながら自分たちの曲の完成を目指していこう。

5. 題材構想（全8時間扱い／本時は第⑤時）

<教師の投げかけ>

子どもの表れ

最終時における子どもの表れ

○教師の働きかけ

① < A と B の曲を聴き比べよう >

- ・4年生のときに聴いた「茶色の小びん」だね
- ・どちらもメロディーは同じだね
- ・今回は音色も同じだったね
- ・でもなんかBの方が気持ち悪い感じがするよ
- ・何が違うんだろう
- ・左手でやってる和音が間違ってるんじゃないかな

< 和音について知ろう >

- ・和音は二つ以上の音の重なりでできた音のことなんだね
- ・「最高到達点」の時に和音のパートってあったよ
- ・和音にはいろんな種類があるんだね
- ・メロディーに合う合わないがあるんだ
- ・なんだか和音って難しそうだな

② < 和音を演奏してみよう >

- ・一人で演奏する時は三つの音を同時に鳴らすから大変だよ
- ・合奏の時みたいに一人1音担当して合わせてみよう
- ・声でやるとハーモニーって感じがするよ
- ・音が伸びない楽器は本当に音が重なったか聴き取りづらいね
- ・トーンチャイムの和音の響きがとってもきれいだな

< 和音の違いを聴き比べよう >

- ・C（Iの和音）は始まりと終わりに使われているね
- ・F（IVの和音）は明るくなった感じがしたよ
- ・G（Vの和音）はCやFと比べると暗い感じがするよ
- ・CFG Cの和音が繰り返されると曲って感じがするね
- ・自分たちの学級ソングにはどの和音が合うのかな

③ < コード進行について知ろう >

- ・和音をつなげていくことをコード進行っていうんだね
- ・I IV Vの和音以外にも和音はありそうだな
- ・どんなコード進行なのか聴くのが楽しみだな

F G Em Am（王道進行）

- ・なんか聞いたことある気がするよ
- ・次に続いていく感じだね

C G Am Em（カノン進行）

- ・最初は明るいのに最後暗い感じで終わるね
- ・このコード進行がいいかも

Am F G C（小室進行）

- ・おしゃれなコード進行だね
- ・せつない感じがするね

C G Am F（1546進行）

- ・明るい感じがするね
- ・未来に向かっていくイメージ

○和音の響きに注目できるように、伴奏のコード進行が異なる二曲を流す。

A：原曲通りの和音

B：Cメジャーの和音

○和音についての理解が深まるように、様々な曲を流し和音の仕組みを取り上げたり、同じコード進行によって作られていることを伝えたりする。

○和音の音の重なりを実感することができるように声や楽器を使って和音が演奏できる環境を設定する。

○和音の響きによる違いを聴き取ることができるように、C、F、Gの和音を視覚的に提示しながら聴けるようにする。

○和音の仕組みを理解することができるようにハ長調の和音を取り扱う。

○自分たちの学級ソングに合うコード進行を選ぶことができるように、聴いて感じたことを共有する。

○コード進行に対して難しさを感じている子どもには、普段聴いている曲のコード進行を伝え、曲の雰囲気はコード進行によって変わることが分かるようにする。

F C G Am (4156 進行)	Am Dm G C (6251 進行)
・落ち着く感じがするね	・あったかい感じがするね
・最後は暗い感じで続くんだね	・A メロにしようかな

＜コード進行によってどんな違いがあるかな＞

- ・同じ和音を使っているけど順番を入れ替えるだけで雰囲気が変わったよ
- ・明るいコード進行が多くてどれが学級ソングに合うか迷う
- ・同じコード進行でも別の曲になることがわかったよ
- ・和音と旋律が合わさって曲になっているんだね
- ・元気な感じを出すためにサビは王道進行にしようかな
- ・みんなで学級ソングに合うコード進行を決めよう

④⑤ (本時) ⑥ ＜和音に合った旋律をつくろう＞

- ・コード進行は前回決めたから今日からいよいよ旋律づくりだね
- ・和音に合った旋律にするには和音に含まれる音を使うといいね
- ・旋律があまり思いつかないからできた人の旋律を聴いてみたい

(A メロ)

- ・初めの部分は歌詞がしっかり伝わるように音の上下をあまりつけられないようにしたいな
- ・歌詞に合わせるのが難しい

(B メロ)

- ・サビに向かって盛り上がる曲にしたいから音もだんだん上がっていくようにしようかな
- ・つなげたらどうなるんだろう

(サビ)

- ・みんなで元気に歌うことができるようなリズムにしよう
- ・サビを担当するみんなで相談しながらつくってみるのもいいかも

⑦⑧ ＜つくった旋律をつなげてみよう＞

- ・みんながつくった旋律をつなげて聴いてみよう
- ・A メロの旋律が歌詞に合っていてすてきだね
- ・B メロとサビのつながりのところをもう少し盛り上がる感じにしたい

＜つくった曲に工夫を加えよう＞

- ・伴奏がピアノだけだから小太鼓やシンバルのリズムを入れたいな
- ・合奏の時みたいにかざりの旋律を合いの手で入れるのはどうかな
- ・GarageBand でこんなビートを見つけたんだけど、どうかな
- ・伴奏にもこだわったら世界に一つだけの歌になるんじゃない？
- ・「明るくて元気」な自分たちのクラスらしい曲が完成したね

- ・和音やコード進行について知ることができた
- ・自分たちのクラスに合った曲がつくれてうれしい
- ・和音の音を使って旋律づくりをしたからしっくりきてる
- ・みんなで歌うのが楽しみ
- ・相棒の1年生に聴かせたいな
- ・他のクラスの曲も聞いてみたいな

○コード進行の違いによってどんな違いがあるのかを共有できるようにロイロノートを準備し、自分の考えが書けるようにする。

○学級ソングに合うコード進行を選ぶ際に、どんな曲をつくりたいかという思いに立ち返ることができるように、学級ソングに込めたい思いを提示する。

○自分の担当する旋律づくりにスムーズに取り組むことができるように、事前に歌詞とコード進行、担当する場所を決めておき、個人での旋律づくりの時間を確保する。

○自分のつくった旋律を何度も聴いて試行錯誤することができるように、GarageBand を活用したりボイスメモで録音したりすることを推奨する。

○どんな旋律をつくったらいいのか迷っている子どもには、他の子どもがつくった旋律を紹介したり、友達と相談しながらつくったりするよう声をかける。

○ある程度の曲が完成したところで、さらに学級ソングとして納得のいく曲にすることができるように、伴奏の音色や効果音などの工夫ができることを伝える。

○曲が完成しただけで終わらず、実際に学級で歌うことも視野に入れていくために、完成した曲を誰かに聴かせたいという子どもの思いを大切に、発表できる場を設定する。